

平成26年度・学校関係者評価報告書

学校法人呉竹学園
呉竹鍼灸柔整専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人呉竹学園 呉竹鍼灸柔整専門学校 学校関係者評価委員会は、「平成25年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員

(業団関係者)

- ・清水 慎司 公益社団法人 神奈川県鍼灸師会 会長
- ・吉田 充孝 公益社団法人 神奈川県柔道整復師会 会長 (当日欠)
- ・伊勢山 竹雄 一般社団法人 神奈川県鍼灸マッサージ師会 会長

(卒業生)

- ・吉田 達矢 バランスアップ鍼灸整骨院 院長 / 呉竹鍼灸柔整専門学校 呉竹会 会長
- ・戸畑 智秋 ちあき接骨院・ちあき鍼灸マッサージ院 院長
- ・三田 正樹 樹はりきゅう院 院長

(保護者)

- ・山本 浩之 在校生 保護者

(教職員)

- ・小林 賢次 呉竹鍼灸柔整専門学校 校長
- ・鈴木 俊三 呉竹鍼灸柔整専門学校 鍼灸マッサージ科・鍼灸科 科長
- ・杉山 直人 呉竹鍼灸柔整専門学校 柔道整復科 科長
- ・建石 泰三 呉竹鍼灸柔整専門学校 事務長

(書記)

- ・津金 達也 呉竹鍼灸柔整専門学校 事務長補佐

2. 開催日時

平成26年6月18日(水) 15時00分～17時00分

3. 開催場所

呉竹鍼灸柔整専門学校 1階・会議室

4. 平成25年度自己点検・自己評価に対する学校関係者評価

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1. 教育理念・目的・育成人材像	<p>①前回の評価結果を受け、スポーツ障害や高齢者への介助など、社会ニーズを踏まえた職業教育が進められている。今後は、その取り組みの経過を見ながら、評価(内容の検証)を行っていくとともに、新たに開設した「特修コース」の充実化を図りたい。</p> <p>②職業教育を実践していく上で、学生の若年化に伴う諸問題(基礎学力・就学意欲の低下、社会人としてのマナー等)についても、教育上必要な措置を講じてもらいたい。</p> <p>③高校生の受験者が増えてきたことを受け、今後は保護者との関係構築に向けた取組を行っていただきたい。</p>	<p>①引き続き、業界等と連携しながら、社会ニーズにマッチした職業教育を展開していく。評価については、授業評価アンケートや卒業生の活躍状況の把握、教育課程編成委員会での提言等を踏まえて評価を行う。</p> <p>②「教育センター」や「Kuretake 塾」でのノウハウを活用しながら、学生個々の習熟度に応じた補習・補講を実施するとともに、キャリアガイダンスを通して、医療人としての素養、マナーを身に付けさせていく。</p> <p>③保護者を重要なステークホルダーと捉え、保護者向けの情報を定期的に発信し、相互関係を構築していくよう努める。また、保護者説明会の開催についてもその内容を検討していく。</p>
2. 学校運営	<p>①組織としての運営方針、意志決定の手順は示されているが、職務分掌規程の不備や教職員の高齢化など将来に向けた人事、人材育成の観点から具体的な改善を望む。</p> <p>②前回の指摘にあったとおり、学校運営においては、不祥事(パワハラ、セクハラ、個人情報流失等)を招かない組織としてのコンプライアンス(法令遵守)推進が不可欠である。現状では、教職員個々の倫理観に任されている所があるため、具体的な対策として、学校組織として定期的に勉強会を開催し、それらを教職員全体で共有することが必要である。</p>	<p>①人事及び人材育成に関しては、学園の方針に基づくものであることから、学園総務と共に規程の整備や体制作りを進めていく。</p> <p>②スクールコンプライアンスに関する勉強会を開催し、法令倫理に則った適切なコンプライアンス体制を構築し、それらを共通認識として全職員間で共有する。</p>
3. 教育活動	<p>①職業実践専門課程の認定を受けたことは、職業教育の質を担保されたものとして評価に値する。今後も実践的な職業教育を提供するために注力していただきたい。</p> <p>②前回の課題であったインターン制度の導入が早い段階で準備できたことは、学校の真摯な姿勢が体现されており評価できる。今後は制度内容の充実を期待する。</p> <p>③学生の臨床力を鍛えていくために、指導側の臨床力の向上にも努める必要がある。また、地域包括医療への対応については、現場の治療院、業団等の外部関係者による講話等が望ましいと考える。</p>	<p>①教育課程編成委員会やFD活動等の取り組みを通じて、より実践的な職業教育を目指していく。</p> <p>②インターンシップ制度は始まったばかりであり、今後は実際の学修成果を評価していくことで、教育活動に還元していく。</p> <p>③業団等が行う教員研修会や勉強会に組織として積極的に参加させていく。また、外部講師による授業や企業講演会等を通じて、学生の刺激を喚起し、幅広い知見を身に付けさせる。</p>

4. 学修成果	<p>①資格者養成学校として、卒業生全員(3学科156名)が国家試験に合格したことは大いに評価できる。</p> <p>②退学者対策に努力されているが、今後も治療家としてのモチベーション向上、学力向上の策などを通じて、退学者の予防に努めてもらいたい。</p> <p>③前回の指摘のとおり、キャリア形成の成果や卒業後の動向(活躍状況)を把握するため、なるべく多くの卒業生と接触できる仕組みを作り、その過程で得られた情報を教育現場に活用していただきたい。</p>	<p>①引き続き国家試験全員合格を目指して努力していく。</p> <p>②教育センターにおいて、退学に至る原因等を調査し、早い段階で対策を立てられるように体制を強化する。</p> <p>③国家試験合格後(卒業後)に就職先を選定する傾向が強く、卒業生の動向把握が難しい面もあるが、在学中から就業状況調査や進路調査を段階的・継続的に行うことで、就職(又は治療経験を積むこと)への意識を高めてもらうとともに、卒業後の調査があることを在学中から周知し、多くの協力を得られるよう努める。また、校友会の具体的な活用方法について検討する。</p>
5. 学生支援	<p>①進路・就職支援として、キャリア支援室が開設され、今後の活動に期待する。</p> <p>②学生相談は、相談内容が私生活を含めて広範に及ぶこともあるため、専門家や担任教諭ありきではなく、初動対応として複数の教員で対応できることが望ましい。</p> <p>③経済的支援として、奨学金や教育ローンのほか、社会人向けの教育訓練給付金制度の申請手続きを進めており、支援体制として十分評価できる。</p> <p>④学生が若年化してくれば、保護者との関係構築は必須になってくる。従って、保護者に向けた情報提供、連絡は十分をお願いすると共に、相互関係構築のための取り組みを行っていただきたい。</p> <p>⑤高校との連携について、高校ガイダンスや神奈川県専修学校各種学校協会が主催する「仕事の学び場」に積極的に参加されている。</p> <p>⑥国家試験不合格者に対して、「聴講制度」や「Kuretake 塾」などの支援体制が確立されており、平成25年度の塾生が全員合格していることは特筆すべきことである。</p>	<p>①就職のみならず、医療関係職種に必要なキャリアサポート体制のあり方を検証していく。</p> <p>②教育センターや学校協会で行う学生対応のセミナーや研修会に参加することで、教職個々の対応力を高めるとともに、学年主任含む複数の教職員で適切に対応していきたい。</p> <p>③奨学金や教育ローンについては、学校説明会等で丁寧な説明を心がける。</p> <p>④これまで独立生計を営む社会人が多く特段の取り組みをしてこなかったが、高校生の受験者が増えていることから、学生の就学においては、保護者との連携が欠かせないと考えている。今後は情報提供を通じて、学生の就学を支援するパートナーとして適切に関係構築を目指していく。</p> <p>⑤高校生に対して、職業教育への架け橋となるよう、今後も高校との関係強化に努めていく。</p> <p>⑥現役生はもちろんのこと、既卒者対策にも積極的に取り組んでいく。</p>

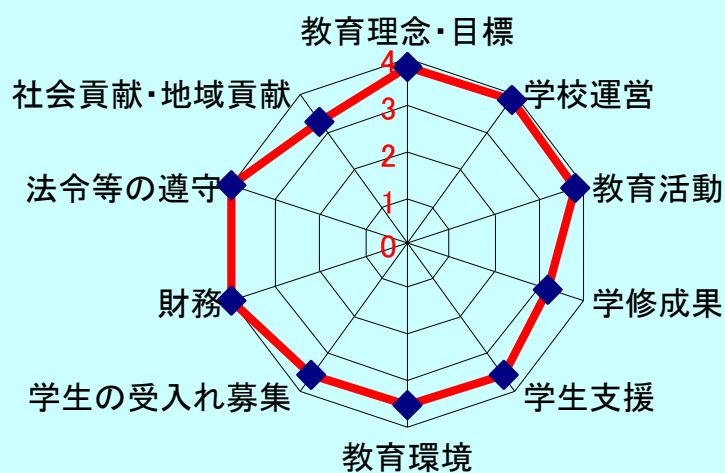
6. 教育環境	<p>①法令で定められている教育環境にあり、建物劣化診断による中長期修繕計画、消防計画に基づく防災訓練、避難訓練、災害時の備蓄など防災への意識も高く評価できる。</p> <p>②スポーツ、高齢者対応など社会ニーズを踏まえた教育備品の整備をお願いしたい。</p> <p>③前回の指摘にあったとおり、柔道整復科における施術所（臨床施設）の活用に関心をもちたい。また、スポーツ障害への対応については、陸上、球技など分野ごとの競技特性を踏まえた上で進めたい。</p>	<p>①施設を適切に管理し、学生が安心快適に過ごせる教育環境を提供していく。</p> <p>②社会ニーズを踏まえた教育を提供するにあたり、今後実習・実技で必要となる介護・介助用品等の教育備品の整備を段階的に進めていく。</p> <p>③指摘のとおり、今後は内部体制を見直し、柔道整復科の臨床施設を有効活用していく。スポーツ障害については、まず総論的に進めていく中で、必要に応じて専門性を高めてきたいと考えている。</p>
7. 学生の募集と受け入れ	<p>①あはき・柔整養成施設の指導要領、専修学校各種学校の入試に関する運用基準等に則り、受入時期、定員遵守等、適切に学生募集が行われている。</p> <p>②鍼灸師、あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師の活躍の場をPRするとともに、「職業実践専門課程」の認定や「特修コース」の開設など、自校の魅力や教育成果を正確に伝え、多くの志願者の期待に応えてもらいたい。</p>	<p>①引き続き、法令等を遵守して適正な募集活動に専念する。</p> <p>②昨年よりホームページのコンテンツを大幅に増やし、志願者が求める情報提供に努めている。学校説明会では、教育成果を含めた具体的な学校情報を提示することで、学校への理解を促進していただけるよう努力している。</p>
8. 財務	<p>①借入金がなく経費節減にも努力され、健全な経営が保たれている。また、資金収支計算書、消費支出計算書等の財務に関する情報をホームページに公表している点も評価できる。</p> <p>②少子化等により厳しい学生募集が続くことで、財務基盤が弱体化する恐れもあるため、学生の安定供給と退学防止、経費節減等に向けて継続的な努力をお願いしたい。</p>	<p>①財務の運営については、姉妹校を含む学園全体で行っており、引き続き外部監査による健全な学校経営を堅持していく。</p> <p>②指摘のとおり、学校経営の基盤は学生納付金に依存しているため、学生募集の強化、退学者低減、経費節減等に一層努力する。</p>
9. 法令等の遵守	<p>①特に問題となる事例も皆無であり、関係法令に基づき適正に運営されている。</p> <p>②インターネット社会においては、対策をしてもウイルス感染による個人情報の流出などの可能性が否定できないことから、その管理について組織として十分に留意願いたい。</p> <p>③自己点検・自己評価を実施するとともに、その結果を公表している。さらに、学校関係者評価も実施してい</p>	<p>①最新の法令、基準及び所轄監督官庁の指導に従い、学校運営を行っていく。</p> <p>②ウイルス対策ソフトは常に最新版を適用し、学内ネットワーク及びクライアントPCのセキュリティーの強度化、個人情報ファイルのパスワード化、USBメモリの使用制限などで対策している。また、定期的にセキュリティーに関する勉強会を開催する。</p> <p>④教育上、すぐに実行可能な案件に関しては速やかに着手するとともに、</p>

	る。	段階的に検討を必要とする案件については、中長期的に対応していく。
10. 社会貢献	<p>①近隣・地域住民の方に対して、学内施設を利用した「チャリティーマッサージ」や「チャリティー鍼灸」を実施されていることは、学校の特性を活かした社会貢献として評価できる。</p> <p>②前回の提言を受け、すぐに学生のボランティア活動が実施されたことはすばらしい。今後も、学生の社会貢献の意識を啓発するため、関係業団等が主催するボランティア活動に積極的に参加していただきたい。</p> <p>③学校の特性(医療教育)を活かして、より多くの人に対して、怪我の予防や健康に関する公開講座やセミナーを開催してもらいたい。</p>	<p>①今後も継続的に実施していく。</p> <p>②引き続き、業界団体をはじめとするさまざまなボランティア活動の周知、支援を行っていく。</p> <p>③提言を受け、平成26年度から定期的に公開講座を実施することとした。</p>

5. 総評

昨年からの改善点も多く見られ、呉竹鍼灸柔整専門学校の教育活動及び学校運営に対する姿勢は評価できる。尚、平成26年度における学校関係者評価委員による項目別の評価点数の分布を下図に示した。各項目別の評価の平均値(4段階評価)は「3.7」であり、前回より「0.1」ポイント増加した。今後も自己点検自己評価や学校関係者評価をはじめとするさまざまな主体的な取り組みを通して、職業実践専門課程の名に相応しい建設的な教育活動及び学校運営をお願いするとともに、伝統医療教育の伝統校としてリーダーシップを発揮されることを期待する。

＜学校関係者評価委員による項目別の評価＞



以上